

2004年4月アルゼンチンの政治情勢

2004年5月作成
在アルゼンチン大使館

1. 概要

これまで国民の高い支持率を維持してきたキルチネル政権に対し、徐々に社会の不満が現れてきた。学生アクセル・ブルンベルグ殺害事件を機に、国民の治安悪化、警察の腐敗に対する不満が一気に高まり、約15万人が治安改善のための具体策の即実行を求め大規模集会を行った。これに対し、政府は、治安対策が最緊急課題であると認識し、国民の治安改善要求に応えるため、治安司法改革計画を策定し大々的に発表した。その他、キルチネル大統領は、十二指腸炎で緊急入院し、一時的に公務から離れた。

外交面では、エネルギー危機による亜の対チリ天然ガス輸出削減に関して、チリ政府が亜に対する抗議を繰り返した一方、亜ボリビア間で対亜天然ガス輸出について合意がなされた。対英関係では、マルビーナス戦争開始22周年記念式典で、キルチネル大統領が演説を行い、マルビーナス諸島の領有権を改めて主張した。対墨関係では、デルベス墨外相が亜を訪問した。その他、米務省のテロ年次報告は、亜関連部分で、亜のテロ対策や三国国境地帯について言及した。

2. 内政

(1) アクセル事件と大規模集会

(イ) 1日、治安悪化に抗議して、議会前広場を中心に約15万人（一部報道では20～25万人）の大規模集会が行われた。

(ロ) 大規模集会の背景には、3月17日、学生アクセル・ブルンベルグがブエノスアイレス市郊外において誘拐・殺害された事件で、事件後、誘拐から殺害に至るまでの間に司法や警察の過失等があったことが明るみになったことを機に、アクセルの父ブルンベルグ氏が、国に対して治安改善のための具体策の即時実行を求め、抗議活動への呼びかけを行ったところ、一向に改善されない治安及び警察の腐敗等に日々不満をつのらせていた世論が賛同したことがある。

(ハ) 政治的動員が一切行われなかったにもかかわらず、中産階級を中心にこのように記録的な数の一般市民が自発的に参加した点で歴史的な集会になり、政府に強い衝撃を与えた。

(2) ブエノスアイレス州治安大臣の交代

3月31日、アクセル事件における警察の不手際の責任をとる形で、リバラ・ブエノスアイレス州治安大臣が辞任し、13日、後任としてレオン・アルスラニアン元高裁判事が就任した。

(3) 治安司法改革計画の発表

(イ) 19日、ベリス司法・治安相は、キルチネル大統領他要人多数出席の下、治安司法改革計画を大々的に発表した。

(ロ) 同計画は、政府が1日に実施された大規模デモを機に、治安対策が最緊急課題であると認識し、国民の治安改善要求に応える形で策定されたものである。発表は、病気で入院していたキルチネル大統領（下記（4）参照）が退院して大統領府で執務を再開した初日に行われた。

(ハ) 同計画の主要点

- ・ 組織犯罪（誘拐、麻薬、テロ等）に対処する連邦捜査局を設置。同部隊は州の要請により全国で活動する。
- ・ ブエノスアイレス市に千五百人から成る「地方警察」を設置する。
- ・ 刑法改正（受刑年齢下限を16歳から14歳に）。
- ・ 司法改革（裁判所の統合、簡易裁判、陪審員制度の導入等）。
- ・ 市民参加促進（警察署長の公募、警察官の異動審査等）。
- ・ 刑務所改革（8新刑務所建設、服役囚の刑務所内労働、仮釈放制限等）
- ・ その他、警察の機材整備、金融制度改革（マネーロンダリング対策等）、教育対策（児童の退学防止）、政治改革（電子投票導入制度改革、政党補助金制度改革）。

(ニ) 同計画については、全体的には、その意欲的な計画を一応評価する向きが多いが、計画実行のためには新たな立法措置や多額の財源を必要とするため実現性に疑問の声も上がっている。また、一部州知事からは、政府から事前に何も相談がなかったことに対する不満や、首都圏を中心にした治安対策計画であることから、犯罪者の地方への逃避や本来地方に回される予算が本計画の財源に使用される可能性に対する懸念の声が上がっている。

(4) キルチネル大統領の入院

(イ) 8日、キルチネル大統領は、地元サンタクルス州カラファテ滞在中に、出血性の急性十二指腸炎で緊急入院し、翌9日に同州都リオガジェゴ市に搬送された。

(ロ) 病気の原因は、歯科治療後に処方された抗炎症剤と発表されたが、各主要紙は、エネルギー危機や治安改善への世論の圧力が増す等懸案を抱える中でストレスも作用したと報じた。

(ハ) 14日、キルチネル大統領は退院し、オリーボスの官邸で徐々に公務を再開し、19日、大統領府での公務に復帰した。

(5) メナム元大統領への国際指名手配及び引渡し要請

(イ) 20日、ウルソ連邦判事は、刑務所建設入札に絡む汚職捜査に関連して、チリに滞在中のメナム元大統領を、インターポールを通じて国際指名手配した。メナム元大統領は、これまで同判事からの再三の召喚に様々な理由をつけて応じてこなかった。

(ロ) 26日、オジャルビデ連邦判事も、スイスの隠し口座での不正蓄財やマネーロンダリング捜査に関連して、同元大統領を国際指名手配した。

(ハ) 29日、亜外務省は、ウルソ判事の要求に応じ、チリ司法当局に対する引き渡し請求をチリ外務省に送付した。

(6) サンルイス州

(イ) 29日、州による州教職員法改正に抗議してデモ活動を行っていた教員組合関係者に対して、警察が催涙ガス、ゴム弾等を用いて鎮圧した事を機に、ロドリゲス・サア州知事派と反知事派の対立が深刻化した。

(ロ) 反知事派は、知事の辞任及び中央政府の介入を求めて連日抗議活動を行った。

(二) 現在のところ、中央政府は不介入の立場をとっているが、今後の動向が注目される。

3. 外交

(1) エネルギー危機と周辺国との関係

(イ) 亜のエネルギー危機により、亜が対チリ天然ガス輸出を削減した問題に関し、チリ政府は二国間の信頼関係を損なうものである旨の批判を繰り返した。

(ロ) 6日、チリ政府は、亜政府の決定は、亜チリ間で1995年に署名されたエネルギー統合に関する議定書に違反するものである旨主張する文書を出し公式に抗議した。これに対し、7日、亜政府は、天然ガス供給削減は議定書には反せず、同措置は、亜の緊急事態という例外的な状況によるものであると答えた。

(ハ) 一方、21日、キルチネル大統領とメサ・ポリビア大統領が会談し、ポリビアによる亜への天然ガス輸出について合意した。同合意では、輸入ガスは全て亜の国内市場向けであり、第三国(チリを想定)へ再輸出は行わないことを約束しており、チリの亜に対する反発を更に強めることとなった。

(ニ) 24日、ビエルサ外相とアルベアル・チリ外相が会談し、同問題解決のため二国間ワーキング・グループを設置することで合意した。

(2) 英

(イ) 2日、マルビーナス戦争開始22周年を年記念して、南部のティエラデルフエゴ州において、キルチネル大統領出席の下、記念式典が開催された。キルチネル大統領は、元戦士や戦死者の遺族等を前にした演説で、マルビーナス諸島の領有権を主張し、外交ルートで平和的に交渉をしていくと述べた。

(ロ) 亜海軍の砕氷船イリサール号によるマルビーナス(フォークランド)諸島の排他的経済水域内での漁船に対する証明書の提示要求や尋問行為に関して、英政府が、亜政府に対して正式に苦情を申し立てていた件に関し(一度非公式に説明を求めたが、回答が満足のいくものではなかったため)、7日、亜政府は、文書で回答し、この時期にイカ資源保護の措置を厳格に実施する必要性からこのようなコントロール業務を行ったという非公式回答と同様の説明を繰り返した。また、同文書の中で、マルビーナス諸島の領有権主張を繰り返し、英国との交渉再開を要求した。

(3) 墨

(イ) 15-16日、デルベス墨外相が亜を訪問した。15日、デルベス外相は、ピエルサ外相と共に出席した亜墨フォーラムの開会式の席で、墨のメルコスールへの加盟の意思を表明した。

(ロ) 16日、デルベス外相とレドラド外務次官(通商・国際経済担当)は共同記者会見を行い、この場で、レドラド外務次官は、墨のメルコスール加盟について、メルコスールは墨加盟歓迎の意を表する一方で、実際の加盟には一連の手続きを踏まなければならないと述べた。

(4) 米務省のテロ年次報告書：亜関連部分

(イ) 28日、米務省はテロ年次報告を発表し、亜関連では、亜のテロ対策や三国国境地帯について言及した。

(ロ) 同報告書の亜関連部分の主要点

- ・ 亜は、世界のテロ対策への強い支持を繰り返し表明し、国連、米州機構(OAS)、メルコスール、米等と緊密に協力してきた。
- ・ (現在政府が検討中の)テロ対策法案に関しては、新しい包括的なテロ法制定に向けての進展はほとんどなかった。
- ・ 一方で、亜はテロ行為を一貫して強く非難しており、前ドゥアルデ大統領及び現キルチネル大統領も、公共の場でテロを批判し、テロ対策への支持を繰り返し表明している。
- ・ 三国国境地帯でのアルカイダによる具体的なテロ活動は確認されていないが、マネーロンダリングや同地域からテロ組織への資金流出が引き続き懸念されている。

(5) 要人往来

(イ) 来訪

13-14日、 イヴァニッチ・ボスニア・ヘルツェゴビナ外相
15-16日、 デルベス墨外相
15-16日、 モハメド・ベナイッサ・モロッコ外相
20-22日、 テーラー米財務長官
21日、 メサ・ボリビア大統領
24日、 アルベアル・チリ外相

(ロ) 往訪

6日、 デビド公共事業相、ベネズエラへ
20-26日、 ラバーニャ経済相、IMF・世銀総会出席のため米へ